

# 統計行事

## 市町村

(表名)	(報告期限)
綿織物産額調(特定町村)	三日
絹織物及絹綿交織物産額調(同)	五日
物價(同)	五日
賃錢(同)	五日
人口動態調査票	五日
工藝農産物其二	十五日
豚生産状況調	末日
――(十一月)――	
綿織物産額調(特定町村)	三日
絹織物及絹綿交織物産額調(同)	五日
人口動態調査票	五日
其ノ町村入寄留者調	五日
園藝農産物蔬菜花卉ノ二	二十五日

夏秋蠶	全日
天蠶及柞蠶	全日
市町村出入人口及現住戸數調	二十日
統計調査員	
――(十月)――	
米生産統計	
基準調査票ノ作成	十月中旬ヨリ收穫期
刈取期	末日
果實(梨、ブドウ)	
――(十一月)――	
米生産統計調査區結果表ノ作成	末日限
關係書類ノ整理提出	全
秋季調査中	

## 初秋の調べ

アワ、ヒエ、キビ、モロコシ	
ソバ、ジャガイモ、大根、ツ	
ケナ、カブラ、ニンジン、ク	
ボウ、ネギ、レンコン、クラ	
イ等	十日

# 茨城統計(九月號目次)

☆表紙……偕樂園公園内遠望

☆寫眞……小倉屬を送る―新治郡園部村統計事務所視察團一行―日立町解散記念―國勢調査申告書檢閲

## 巻頭言

統計活殺の鍵は取扱者の手腕にある……………白崎享一……………〔一〕

◆學事年報集合査閲……………〔五〕

## 實務統計調査の葉

◆進達は全國第二位……………〔六〕

## 第六回 實地調査打合せ

労働統計……………〔一〕

◆労働調査員打合せ……………〔二〕

◆内閣統計局協議打合せ……………〔四〕

◆小倉英一氏應召……………〔八〕

◆統計課員の異動……………〔八〕

## 最近の統計

麥類は三割余の増收……………〔一九〕

春繭は減收……………〔二〇〕

馬鈴薯は増收を豫想……………〔二一〕

菜種は一割八分余減收……………〔二三〕

水稻の作況は稍良……………〔二三〕

玉蜀黍は増段……………〔二四〕

菜畑は減る……………〔二四〕

増産した澱粉……………〔二五〕

◆統計調査員異動……………〔二五〕

## 統計模範町村

筑波郡筑波町……………〔二六〕

那珂郡瓜連町……………〔三三〕

◆一反歩收穫高並單價……………〔三四〕

## 各地統計雜信

短歌……………	丹前……………
俳句……………	田四……………
編輯後記……………	春選……………
	選選……………
	選選……………
	選選……………



號月九計統城菱

卷頭言

★ 新東亞建設の聖業正に其の緒に就き、戦塵やうやく収まらんとする秋、歐洲に兵火の再燃を見る。國際情勢の轉變豫斷を許さざること猫の目の如く、其の多端容易ならざるに驚く外はない。

★ 防共協定の強化に意を強うし、獨蘇不侵略條約の締結に憤慨するのは未だしといはねばならぬ。元寇の來襲に日本を護つた神風は、今形をかへて歐洲の天地を席捲してゐる。他に頼らず、自主獨往、所信に邁進するものこそ強い。

★ 臨時國勢調査に次いで第六回勞働統計實地調査が行はれる。重要國策に寄與する爲に萬全を期さねばならぬ。更に此の秋は收穫豫想到、實收調査に忙しい時ではあるが又快い季節でもある。

# 統計活殺の鍵は

## 取扱者の手腕にある

白 崎 享 一 氏

統計は子供臭いとよく云はれる。イキナリこんな言葉を聞くと、統計関係者は憤慨するかも知れぬが、所謂社會の事情に通じてゐると云はれる人達は、大抵統計を子供臭いと思つてゐるらしい。又我々も反省して見ると統計には其の扱方により確かに子供臭さが附まるとふ場合があるのである。

その證據には統計と云ふものは兎角子供に好かれる。近頃、統計思想の普及と云ふのでだいで小學校方面へ統計知識の普及するやうに努力されてゐる地方があるが、子供には統計のことは割合によく受け入れられる。今朝はご飯を三杯食べた、今夕はご飯を四杯食べた、それを茶椀の形に描いて、その數により圖表に現はさせることなどもやつてゐる。こんなことを子供は面白いがる。私の所では學生用の簡便な統計集を、色々の學科に亘つて發行してゐるが、多くの場合子供はこれを熱心に見て、數字を覚えるのは先生よりも早いらしい。

子供が統計を好くするのはその表現方法がハッキリしてゐるからである。即ち、數の大小で價値が決せられるのであるから、極めて端的で複雑な思考能力を持たぬ子供には好かれるわけである。

代議士選挙に五萬票を得て當選した人と、四萬四千九百九十九票を得て落選した人と、その差は僅々一票で、これを社會的に見ると甲乙は附けられないわけであるが、數の大小だけが物を云ふ選挙では、一票の差で當落がきまつて了ふ。數字には斯

う云ふハッキリさがあるのである。それだけに、また無理がある。大人ならばその落選した人を氣の毒にも思ふであらうが、單純な人間は當選した人間だけが偉いやうに思ふのも無理がない。

子供を連れて映畫を見に行くと、複雑な人情ものなどは、サツパリ判らぬから、畫面に出て來る人間をあの人は善人か、悪人かと聞かれる。簡単にそれを善人とか、悪人とか云ひ切り得る場合もあるが、多くはさうハッキリとは云ひ切れない。良いこともするが悪いこともする。それをクダクダ説明して居たのでは子供には理解できない。それが理解できる位なら、映畫を見て居ても判る筈である。子供の要求する處は、端的に悪人か善人かの結論だけを聞きたいのである。所が世の中はさう善悪のキツパリした人間ばかりで出來て居らない。然るに、選挙は一票の差で當落が判然する如く、數字の大小は端的に結論を示すのである。だから、子供は統計を好むのであらう。

ナポレオンと豊臣秀吉と、どちらが偉いかと、子供から聞かれて、秀吉が偉いと云つてやると子供は納得する。何う云ふ理由で偉いなど云ふ説明よりも、その簡単な斷定を喜ぶのである。本當はどちらが偉いか、容易に斷定し得るものではないが、そんな事を管々しく説明して居たのでは、子供の頭には這入り難い。

之と同じく數の大小は必ずしも常に優劣を決する基礎とはなり難いのであるが、表現がハッキリしてゐるから子供が好むのであり、統計が子供臭いと云はれる理由が此處にあると思ふ。

悉く書を信すれば書無きに如かずと云ふが、統計も亦悉くこれを信すれば、統計無きに如かずで、統計だけで世の中のことは全部判るものではない。これを統計が世の中の全部であるが如く、見るから、統計を子供臭く感ずるのであり、子供が統計を好くのは之を世の中の全部であるが如く、早合點し得る便利さがあるからである。

日本の海軍を英國と比べて軍艦の噸數が少ないから、駄目だと感じ、同じく日英の陸軍を比べ、日本は兵數が多いから優秀





實務  
道場

# 統計調査の葉 (27)

## 一年の辛苦が

# 報いられる秋

## 統計奉公の再検討

稔りの秋、收穫の秋、農村が一年の辛苦を傾けつくした報いを得る喜びの秋である。汗と力の結晶を見て春から夏へ闘ひぬいた銃後の戦士が減私奉公よく國策の線に沿つて第一線將兵に劣らぬ働きを天も嘉してか今年は田に畑に稀な豊作を以つて報いてゐる。御同慶に堪へない。

のがない今年の秋を大水害に惱まされた昨年と比較すると正に雲泥の相違である。鼓腹我が世の秋を楽しむ時であるのに、緊揮東亞建設の聖戦に参加する銃後戦士の心構へで緊忍之努めてゐる有様を見ては眞に頭の下らざるを得ない心地がする。之でこそ東亞を導き新天地を開拓する大國民の姿であると心強さを感じる次第である。

此の秋に統計事務にたづさはる者は

つては居られない忙しい秋である。自分達の仕事を再検討し統計奉公の一路に突き進まうではないか。

## 豚生産状況報告(第三期分)

(市町村報告期十月末日限)

本調査は豚統計改善策の一方法として兎角調査洩れとなりがちな生産頭数の正確なる調査を期する目的から昨年實施した處非常に良結果を得たので今後は引續き(本年第一期分より)左記四期(前年同様)に分ち調査御報告を煩すことになりましたから夫々御手配のことと存しますが今迄の報告書に徴しまずに報告様式を異にするもの、報告期限の遅延するもの等が見受けられましたから第三期分からは報告期限を確守せられ誤謬のない様に充分御留意せられたいのであります。

第一期 (自一月一日至三月末日)

報告期限 其ノ年四月末日限

第二期 (自四月一日至六月末日)

報告期限 七月末日限

己らの仕事について再検討を試みる必要がありはしまいか。自分達の仕事は隠れた様の下の力もちである。併し新東亞建設の重要役割を演じ國家總力戰の源泉を握るものである。若し自分の調査に誤差があればそれは直ちに非常時國家の力量を誤るものである。自分達の仕事は決して棄石ではなく、現下の最も重要な部署を受け持つてゐるものであるといふ事を認識しなければならぬと思はれる。

兎に角我等はさういふ事態を認識し強い責任感を持つていよく統計奉公に邁進しなければならぬ。豚生産状況報告の様式が改められたのや労働統計實地調査が施行されるといふのは取も直さず戦時態勢下に於て統計調査關係者が如何に重要な部署を受け持つてゐるかといふ一つの現はれであると思はなければならぬ。農家にとつて稔りの秋は楽しいものである。併し統計調査に従事する者は只々其の歡喜のみ浸

第三期 (自七月一日至九月末日)

報告期限 十月末日限

第四期 (自十月一日至十二月末日)

報告期限 翌年一月末日限

## 園藝農産物 果實ノ三

(市町村報告期 九月末日限)

調査種類はウメ、モ、櫻桃、ビワであるが、是は孰れも夏季調査に屬し果實票(果實園ノ部及ビ果實園以外ノ部)に依り果實の種類、樹數、收穫高を果實園では栽培反別をも調査し、之が結果を夏季調査集計表に取纏ることになつて居るが、樹數は收穫の目的を以て栽培したもので且結實の樹令に達したものを調査し收穫高は梅は枺(何升何合)他は何れも貫で調査し、一本當收穫高及び單價に注意し前年に比し著しく相違の際は備考に必ず説明を附すること、尙ほ出廻期に於ける相場を參考までに掲載すれば

ウメ 七月始 一貫匁 一圓一六十錢

七月末 全 一圓二十錢一八十錢

モモ 七月末一箱(四貫匁)

三圓五十錢一三圓

ビワ 七月始 二貫匁(一箱)

五圓五十錢一三圓

櫻桃 七月中 一箱(一貫匁)

一圓二十錢一四五十錢  
(茨城食品市場)

## 園藝農産物蔬菜及花卉ノ二

(市町村報告期十一月十五日限)

本表の作付反別は農産物調査方法に基いて調査員が七月から八日にかけて夏季調査として耕地一筆毎に實地踏査したインゲンマメ、キウリ、シロウリカボチャ、スイカ、マクワウリ、ナストマト、ハナユリ等の作は段別を夏季調査集計表に纏めて提出したものに依つて調製するものであります。收穫高は第二〇乙號收穫高決定書に記載の一段步收穫高に該當反別を夫々乗じて算出するのであります。

尙一段步收穫高は無收穫反別を控除しない作付反別を以て收穫高を除した

高を記載し、又單價は調査上一般注意に依り生産季節に於ける其の地方市場卸賣平均價格に依るのであります。

收穫高の單位はインゲンマメは石、ハナユリは個、他は貫を以て單位とし、又インゲンマメは未成熟のものを莢の儘食用に供するものが相當ありますが、之は成熟した時の數量に換算して調査するのであります。

尙昭和十三年に於ける縣平均の反當收穫高並に單價を參考迄に左に掲ぐ

品名	反當	單價
インゲンマメ	七八九合	
キウリ	一石ニ付	二二圓三四錢
シロウリ	一貫ニ付	一四錢
カボチャ	全	一六錢
スイカ	全	一六錢
マクワウリ	全	一三錢
カボチャ	全	三五八貫
スイカ	全	四五五貫
マクワウリ	全	一五七貫

町村外に在る者の數、右の在中在樺太は帝國領土内に居住するもの、在關東洲は旅順、金州、大連の三民政署管内に居住する者を計上の事。不詳は未だ除籍の濟まない行衛不明者、又は失踪者等を計上するのです。

現住人口、本籍人口に右の「入の部」の總計を加へ「出の部」の總計を除きたるもの。

現住戸數、戶籍簿に依る戸主でなく一世帯をなす總數。

尙備考には調査の方法及び前年に對比し著しい差異あるときは必らず具体的に記入説明せられ度い。

本籍人口異動明細表、前年の十月二日より本年十月一日迄の異動、即ち前年十月一日以前の事實で其の月末迄に知り得たるものを除き更に本年十月一日以前の事實を其の月末迄に知り得たるものを計上するものです

### 米第二回豫想收穫高

(市町村報告期十一月三日限)

品名	全	一貫
ナス	全	三一三貫
トマト	全	二八七貫
ハナユリ	全	一、七五三個
	一個ニ付	二錢

### 人口靜態統計表作成に就て

(市町村報告期十一月二十日限)

毎年十月一日現在を以て調査する本表は其の市町村の本籍人口を調査し更に本籍者に於て出寄留の者及び他市町村に於て本籍を有するもので其の市町村に在るもの即ち入寄留者を類別調査して之を加除し現人口を決定するものであります。右方法に依る調査の結果は國勢調査に該當する年に於いては著しく激減するを常として居ります。之れが原因は出入寄届出の勵行せられない爲大都市に接近し出寄留者多き本縣の如きは事實と著しき相違を來し過大なる數字を生じた結果と思はれます

本表は十月末日現在を以て調査の上十一月三日迄に縣に報告書が到達する様報告することになつてゐますから報告期限を厳守して頂き度い。若し何かの事情で期限迄に報告書が到達しない見込の場合には先づ電信電話等で速報せられたい。

豫想收穫高の調査方法は米第一回豫想收穫高と大体同様でありますから本誌七月號の實務道場記事参照の上調査上遺憾なきを期せられたい。備考欄へは米第一回豫想收穫高に比し増減の事由を數字を以て説明する外氣候の適否用水の過不足、施肥の多少、發育の經過及び病虫、風水早害の有無等を必ず記載する様にせられたい。

### 家兎飼養狀況

(市町村報告期其ノ年十一月末日限)

本表は十一月一日現在を以て飼養戸數、飼養頭數を調査し十一月末日限報告することゝなりましたから左の点に

斯の如き奇異な現象は利用範圍の廣大な本調査の信用を傷つける事甚大ですから公簿の外實地の調査をも充分にし調査の萬全を期して頂き度いのです。此の点に就ては毎年春季研究會席上に於て注意を盡しては居りますが本誌上に於て重ねて係員諸氏の注意を喚起する次第です。

次に製表に就て二、三注意を列記しますと、「入の部」本市町村に本籍を有したる者に就て本市町村に寄留するもので調査期日の現在に依つて其の十月三十一日迄に知り得るもの、數を計上し、本市町村に住所寄留をなすもので更に他市町村へ住所外寄留をなすものは本表何れの欄へも計上せず「附表第一」へのみ計上のこと。「道府縣外より」の欄へ計上したる數は更に「附表第二」へ其の内譯を再掲すべきですから掲上洩れにならない様特に御注意願ひます。

「出の部」本市町村の本籍人口中本市

御注意を願ひます。

一、飼養戸數には個人たると法人たるとを問はず家兎の飼養事業を営む者事業主の數を計上する。

二、學校、試験場、種畜場、講習所等は調査を要しない。

三、飼養頭數には第一號の家兎飼養者が十一月一日現在に飼養する家兎の頭數を計上する。

四、價額は飼養家兎の中中位なるもの、時價に依り之を見積る。

五、本調査は飼養者の現在する市町村に於て調査員をして飼養者に就き調査させる

### 兎毛、兎肉、兎毛皮生産高

(市町村報告期は十一月末日限)

本調査は昭和十三年四月二十七日統收第三七號を以て通牒に依る自前年十一月一日至本年十月末日迄の分を調査し十一月末日限報告することになりま

すから左記の点に充分注意せられ誤謬

のない様願ひます

- 一、販賣の目的を以て生産せられたものをみ調査す。
- 二、學校、試験場、種畜場、講習所等に於て生産せられたものは調査を要しない。
- 三、兎毛數量には家兎飼養者が其の期間内

に剪毛して得たる兎毛の數量を調査計上する。

- 四、兎肉數量には其の期間内に家兎を屠殺して得た枝肉(頭、毛皮、内臓を除いた骨附の肉)の量を調査計上する。

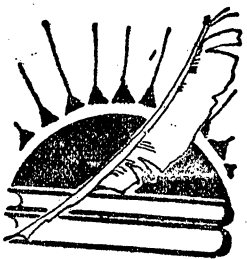
尙本欄は屠殺頭数を調査の上之を中位の

家兎一頭當から得る枝肉の量に乗じて推計しても差支ない。

- 五、兎毛皮數量には家兎を屠殺して得た毛皮の枚数を調査計上する。
- 六、價額は凡て生産者の賣渡價格を基準とする。

の查調勢國時臨  
位二第國全は達進  
了完に裡績成好

去る四月から前後五ヶ月に亘り約四千五百の調査關係者を動員して施行された昭和十四年臨時國勢調査は、各關係者の並々な努力に依つて滞りなく終了、縣に於ては八月八日から十九日迄十二日間に亘り部員が殆ど晝夜兼行で三百七十五ヶ市町村から提出された調査票の内容を一々審査して漸く二十日に全部纏つたので、翌二十一日に菊池屬と福田主事補とがトラックで内閣統計局へ進達したが内閣への進達成績は全國第二位(第一位は富山)の好成績であつた



# 第六回労働統計

## 實地調査打合せ會

縣統計課が調査の萬全を期して  
市町村主任者を招集

來る十月十日を期して施行される第六回労働統計實地調査は労働動員及び國民動員並に賃銀規制等に關する緊急な國策遂行上の重要調査であるので、縣統計課では其の準備並に實施に關し調査の萬全を期する爲縣下市町村主任者を招集事務打合せ會を開催した。指示注意事項及び日割は左の通りであつた。

### 指示事項

- 一、工場ノ調査範圍ニ關スル件
- 二、交通事業體ノ調査ニ關スル件
- 三、技術者ノ調査ニ關スル件
- 四、事業主申告ニ關スル件
- 五、労働者ノ申告ニ關スル件

### 注意事項

- 一、準備調査ニ關スル件
- 二、小規模工場ノ調査取扱方ニ關スル件
- 三、労働者ノ調査ヲ行フベキ工場ノ調査標準ニ關スル件
- 六、軍需品製造工場ノ調査ニ關スル件
- 七、労働調査員及労働副調査員ノ推薦ニ關スル件
- 八、労働調査指導員ノ選定内申ニ關スル件
- 九、労働調査員ノ擔當範圍ニ關スル件
- 一〇、調査従事員ノ指導訓練ニ關スル件
- 一一、調査票ノ檢査ニ關スル件
- 一二、調査書類ノ提出ニ關スル件
- 一三、地方ニ於ケル調査結果集計方ニ關スル件

- 四、労働賃地調査令第三條第一號乃至第三號ニ該當スル事業ヲ管ス工場ノ調査ニ關スル件
- 五、陸上運輸業ノ調査單位ニ關スル件
- 六、事業票及労働票用紙ニ關スル件
- 七、調査事項ノ記入方ニ關スル件
- 八、調査書類ノ管守進達ニ關スル件
- 九、休業事業體ニ關スル件

### 打合會日割

- △茨城縣廳分廳合會議室(九月五日) 水戸、上大野、稻荷、河和田、小川、石塚、磯濱、大貫、笠間、安戸、岩間、大原、七會、北山内、南山内、西山内、東那珂、北那珂、岩間、那珂湊、平磯、額田、芳野、瓜連、大宮、大賀、玉川、山方、小瀬、長倉、磯郷
- △茨城縣廳分廳合會議室(九月六日) 坂本、西小澤、幸久、郡戸、久米、金砂、天下野、高倉、染和田、山田、譽田、河内、中里、賀美、小里、生瀬、宮川、黒澤、佐原、大子、袋田、上小川、下小川、諸富野、太田、久慈、坂上、多賀、助川、日立、豊浦、楯形、黒前、高萩、高岡、松岡、南中郷、磯原、華川、關南、大津、平湯、關本
- △鉾田町役場(九月七日) 大谷、諏訪、新宮、白鳥、大同、中野、豊郷、豊津、高松、息栖、輕野、若松、矢田部、波崎、麻生、八代、潮來、津知、大生原、大和、津澄、武田、秋津、立花、行方、手賀、鉾田
- △土浦町役場(九月八日) 眞鍋、下大津、美並、佐賀、關川、高濱、田余、石岡、柿岡、七會、都和、藤澤、山ノ莊、榮、栗原、土浦、谷田部、

- 東那珂、北那珂、岩瀬、七會
- ▲十月三日(那珂湊町役場) 那珂湊、平磯、額田、芳野、瓜連、靜、大宮、大賀、玉川、山方、小瀬、野口、長倉、磯郷
- ▲十月四日(久慈郡自治會館) 世矢、坂本、西小澤、幸久、郡戸、小里、久米、金砂、天下野、高倉、太田、黒澤、久慈、染和田、山田、河内、中里、賀美、生瀬、宮川、佐原、大子、袋田、上小川、下小川、諸富野、譽田
- ▲十月四日(多賀町役場) 多賀町
- ▲十月四日(高萩町役場) 坂上、豊浦、楯形、黒前、高萩、松岡、高岡、南中郷、磯原、華川、關南、大津、平湯、關本
- ▲十月五日(鹿島町役場) 大谷、鉾田、白鳥、大同、中野、豊津、高松、矢田部、波崎、新宮、豊郷、息栖、輕野、若松、麻生、八代、潮來、津知、大生原、大和、津澄、武田、秋津、立花、行方、小高、手賀
- ▲十月五日(龍ヶ崎町役場) 江戸崎、君賀、沼里、鳩崎、木原、舟島、朝日、奥野、牛久、駒柴、根本、太田、伊崎、阿波、龍ヶ崎、大宮
- ▲十月五日(土浦町役場) 眞鍋、上大津、下大津、美並、佐賀、關川、高濱、田余、石岡、柿岡、七會、都和、藤澤、山ノ莊、榮、栗原、土浦
- ▲十月六日(谷田部町自治會館) 谷田部、三島、谷井田、豊、谷原、福岡上郷、吉沼、高道祖、田水山、筑波、田井、北條、小田、大穂
- ▲十月六日(下館町役場) 下館、竹島、養蠶、河間、中、伊讚、關本、河内、川西、下妻、大寶、黒子、大、長讚、谷貝、紫尾、樺穂、眞壁、新治、結城、中結城、名崎、村田
- ▲十月六日(古河町役場) 古河、新郷、靜、長田、逆井山、八俣、幸島、

### 労働調査員

## 打合會

六百餘名招集

- 三島、谷井田、豊、谷原、福岡、上郷、吉沼、高道祖、田水山、筑波、田井、北條、小田、大穂
- △下館財務出張所(九月九日) 下館、竹島、養蠶、河間、中、伊讚、關本、河内、川西、下妻、大寶、黒子、村田、大、長讚、谷貝、樺穂、眞壁、新治、結城、中結城、名崎、岡田、豊岡、宗道、玉、石下、五箇、三妻、北海道、古河、新郷、長田、八俣、幸島、猿島、生子菅、逆井山、香掛、弓馬田、岩井、七郷、境
- △龍ヶ崎町役場(九月十日) 大井澤、高野、守谷、稻戸井、山王、寺原、取手、井野、相馬、文、江戸崎、君賀、沼里、鳩崎、木原、舟島、朝日、牛久、駒柴、太田、阿波、龍ヶ崎、大宮
- 労働調査員三百名労働副調査員三百十一名は九月五日付を以て内閣より任命せられたので縣では左記日割に依つて之等調査員の打合會を開催して調査の萬全を期した。
- ▲十月二日(水戸市役所) 水戸市、上大野、稻荷、河和田、小川、石塚、磯濱、大賀
- ▲十月三日(日立市役所) 日立市
- ▲十月三日(笠間町役場) 笠間、安戸、岩間、北山内、南山内、西山内、
- 生子菅、香掛、弓馬田、岩井、七郷、境、神大寶
- ▲十月六日(取手町自治會館) 岡田、豊岡、養蠶、宗道、玉、石下、豊田、五箇、三妻、北海道、大井澤、守谷、稻戸井、寺原、取手、井野、相馬、文、高野、山王

### 労働調査指導員任命

労働調査指導員として九月五日付を以て内閣から左記の者が任命された。

統計課長	屬	大月一郎
同	同	郡司常成
同	同	高島萬藏
同	同	菊池忠壽
同	同	松井桐紫
同	同	平松清三
同	同	小泉芳敏
同	同	塚本正毅
同	同	部利男
同	同	加倉井榮太郎
同	同	山中平守
同	同	綿引操
同	同	福田信男



# 内閣統計局

## 協議打合會

大月統計課長  
郡司屬が出席

内閣統計局では第六回労働統計實地調査に關する諸般の協議打合の爲八月十七、十八の兩日地方統計主任官會議を開催し本縣から大月統計課長、郡司屬が出席したが、十七日には午前九時半から會議が開かれ劈頭太田内閣書記官長及び川島内閣統計局長の訓示があり、續いて要項に就き説明及び指示注意があり、十八日には一般事務の注意並に質疑應答があつて會議を終つたが調査要項及び内閣書記官長、全統計局長の訓示及び要項は左の如くである。

### 内閣書記官長訓示

本日茲に、地方統計課長會議の開催せらるるに當り、一言所懐を申述ぶるを得ますことは、私の欣快に存する所であります。支那事變は、既に二ヶ年を閲しましたが、其の間赫々たる戦果を収めつつありますのは、偏へに、御稜威の然らしむる所でありまことは勿論、又一面皇軍將兵の勇戦力關に依る結果でありま

月に施行せられます關係上、會議の期日を繰り下げ、準備調査に付きましたは、昨年の臨時労働統計實地調査に依る各位の御經驗に期待して、其の進行を御願ひした次第であります。今回の調査は、後に詳細説明致しますが、主として労働動員及國民動員並賃銀規制等、緊急なる國策遂行上の必要より行はるるものであります。之が爲あ工場及鐵山の調査範圍及調査事項には、相當の改正が加へられたのであります。調査の範圍に付きま

しては、第五回調査では、労働者五十人以上を使用する工場鐵山の事業主及之に所屬する労働者を調査するを原則としたのであります。今回の調査に於きましては、事業主に付ては、常時五人以上の労働者を使用し又は使用する設備ある工場鐵山に範圍を擴げ、労働者に付ては、工場では第五回調査と同様五十人以上の労働者を使用する工場に止めますが、鐵山では、五人以上の労働者を使用し又は使用する設備ある鐵山まで、範圍を擴めたのであります。次に調査事項に付きましては、此の種の調査で、今迄に試みられなかつた所の賃銀形態及労働者の扶養者数を始めとし、應召労働者數、兵役關係、轉職非轉職の別等をも、調査することゝなつたのであります。労働動員計畫の外に、最近問題化して参りました賃銀規制等の立案計畫に、貴重な資料を提供するのであります。又本調査に於きましては、昨年は行はれました臨時労働調査の場合と同様、法令の規定には依らないが、事業主の調査範圍の工場鐵山及交通事業體に付き、技術者をも調査し、技術指導者の教育、技能に關する事項を明にすることとなつて居るのであります。

て、國民として、洵に感激に堪へない所であります。統後に在る我々は、此の前線將兵の奮闘に感謝すると共に、力を併せて東亞新秩序建設の爲めに、最善の努力を致さねばならないと存するのであります。曩に、時局の必要上、國民の消費事情及國內配給機構の調査の爲めに、臨時國勢調査を施行したのであります。諸君の並々な御努力により調査の順調に進行致しました事は、邦家の爲めに各位の御勞苦を深く多とするものであります。

扱て、今回特に諸君の御參集を煩はしましたのは、今年十月施行せらるべき第六回労働統計實地調査に關して打合を遂げたい爲めであり。今回の調査は定期の調査ではありませんが、其の實質は普通のものと異り、時局に必要な労働事情を明にするものであつて、將來の労働動員、其の他産業上の重要國策に資すべき所多く、其の意義は、甚だ大なるものがあるものであります。各位に於かれましては、此の點を充分認識し、諸般の會議事項に付いては能く協議を盡され、實査に當りましては一段の努力を以て、本調査の完全なる遂行を期せられ度く希望致す次第であります。

### 内閣統計局長訓示

今回會議の主題となつて居ります第六回労働統計實地調査に關しましては、曩に本年六月勅令及閣令の改正公布を見たのであります。而して從來は、準備調査前に本會議を開催し、諸般の打合せを致したのであります。本年は我邦初めての臨時國勢調査が八

ます。斯様な具合に、今回の調査は定期の調査ではありませんが、時局に即應した基礎資料を得る様改正した特別の意義を有するのであります。

私は、各位が本年初頭以來、臨時國勢調査と云ふ全く新しい且つ困難なる調査に盡粹せられ、其の御蔭を以て調査が順調に進行しつゝあることに對しまして、此の機會に厚く感謝の意を表しますると共に、上述の如き今回の労働調査の重要性を十分認識せられ本年の後半期に於て一段の御努力を拂はれ、本調査の優秀なる成績を収むる様、御協力あらんことを切望してやまない次第であります。

### 第六回労働統計實地調査要綱

(側線を附したる箇所は第五回調査に比し改正點)

#### 第一 調査の時期

工場、鐵山又は船舶以外の交通事業體に關する調査は十月十日現在、船舶に關する調査は九月十一日より十一月十日に至る期間内に帝國内地の港に入りたる船舶に在りては其の最初に帝國内地の港に入りたる日の現在、九月十日以前より引續き帝國内地の港に在る船舶に在りては九月十一日現在

#### 第二 調査の範圍

##### 1 工場

##### (イ) 事業主

常時五人以上の労働者を使用する工場又は五人以上の労働者

を使用する設備を有する工場の事業主

(ロ) 労働者

五十人以上の労働者を使用する工場に所屬する労働者但し左記第一號に該當する工場に在りては三百人以上、第二號に該當する工場に在りては百人以上、第三號に該當する工場に在りては十五人以上の労働者を使用する工場に所屬する労働者

一 造船業、航空機製造、人造絹絲製造、絹絲紡績、毛絲紡績、麻絲紡績又は綿絲紡績を営むもの

二 硝子製品製造、セメント製造、精鍊業、金屬壓延業、電線電纜製造、探礦・選礦・精練用機械器具製造、銃砲・彈丸・水雷製造、電動機・電氣機械器具製造、電氣通信機械器具製造、鐵道軌道車輛製造、自動車・自動自轉車製造、樂器製造、時計製造、肥料製造、火藥、其の他の發火物製造、マッチ製造、生絲製造、砂糖類製造、麥酒釀造又はガス發生供給業を営むもの

三 木蠟・蠟製品製造、眞綿製造、毛搦絲製造、メリヤス・メリヤス品製造、建具・家具・指物類製造、漆器製造、墨表・花筵・真座類製造、粟・麥稈・經木・棕櫚細工又は箆・籠・行李類製造を営むもの

2 鐵山

常時五人以上の労働者を使用する鐵山又は五人以上の労働者を使用する設ある鐵山の事業主及労働者

3 交通事業體

左の事業體の事業備及其の所屬労働者

1 陸上運輸業

(イ) 國有鐵道(之に關聯する國營自動車を含む)  
(ロ) 労働者五十人以上を使用し地方鐵道、軌道若は架空索道の運輸事業又は一定の路線に依る自動車の運輸事業を営むもの

2 運輸取扱業

労働者五十人以上を使用し、船舶より若は船舶への貨物の積卸の事業又は岸壁、波止場、停車場若は倉庫に於ける貨物取扱の事業を営むもの

3 船舶

船舶法の適用を受け海上運輸に従事する總噸數千噸以上の船舶

4 郵便・電信・電話事業

政府管掌の郵便、電信及電話事業

第三 調査の事項

一 事業主

- 1 工場又は鐵山の名
- 2 工場又は鐵山の所在地
- 3 事業の種類
- 4 労働者現在數
- (イ) 年齢階級別

(ロ) 轉職者(就職前の産業)及非轉職者(就職前の世帯主の産業)別(轉職者・非轉職者)は昭和十四年三月末日以前の就職者と昭和十四年四月一日以降の就職者とに分ち、非轉職者は更に手助と其の他に分ち調査す

(ハ) 就職経路別

(ニ) 教育程度別

- 5 一日の所定就業時間  
内所定休憩時間
- 6 一月の所定休業日數
- 7 賃物給與の種類及價額
- 8 賃銀形態

備考欄に應召労働者數を附記せしむ

2 陸上運輸事業及運輸取扱事業

- 1 事業體の名
- 2 事業體の所在地
- 3 事業の種類
- 4 労働者現在數
- 5 一日の所定勤務時間
- 6 賃物給與の種類及價額

備考欄に應召労働者數を附記せしむ

3 船舶

1 船舶名

- 8 轉職(轉職前の勤務先及職名)又は非轉職(就職前の世帯主の産業)の別
- 9 賃銀
- 10 就業時間

二 労働者

備考欄に應召普通船員數を附記せしむ

- 1 工場又は鐵山
- 2 氏名
- 3 男女の別
- 4 出生の年月日
- 5 尋常小學校卒業地
- 6 配偶者の有無及扶養者數
- 7 職名(兵役關係)
- 8 就業の年月數

(イ) 當該工場又は鐵山存職年月數

(ロ) 當該職業に従事する年月數

轉職(轉職前の勤務先及職名)又は非轉職(就職前の世帯主の産業)の別

賃銀

就業時間

- (イ) 一月の實際労働日數
- (ロ) 一日の所定就業時間
- (ハ) 一月の超過又は短縮労働時間合計
- (ニ) 一日の平均就業時間

- 11 貨物給與の有無
  - 12 交通事業體
  - 1 氏名
  - 2 男女の別
  - 3 出生の年月日
  - 4 尋常小學校卒業地
  - 5 配偶者の有無
  - 6 教育の程度
  - 7 職名(兵役關係)
  - 8 就業の年月數
  - 9 賃銀又は給料
  - 10 貨物給與の有無
- 附 技術者 工場、鑛山及交通事業體(地力鐵道、軌道、架空索道、定路線自動車、運輸取扱業)
- 1 氏名
  - 2 男女の別
  - 3 出生の年月日
  - 4 職名
  - 5 教育
- (イ) 卒業又は修業學校名 (ロ) 専攻學科名

### 小倉英二氏應召

縣屬、縣統計協會會務委員小倉英二氏は八月下旬應召、縣統計課員の見送りを受け九月三日水戸驛發〇〇隊に入隊した。

### 統計課員の異動

七月三十一日付で左の如く統計課員の異動が發令された。

屬 池田正雄

總務部地方課勤務ヲ命ス

統計主事補 松井桐紫

任縣屬

綿引 操

福田 信男

統計主事補ニ任ス

## 最近の統計

### 昨年の實收高に比し

# 麥類は三割餘の增收

作付段別も若干は増加したが

天候の適順と作業の順調とで

昭和十四年の縣下麥作付反別及び其の前年の比較は

△大麥三萬四千九百十八町九反歩(一分三厘減)△稈麥二千四百二十六町九反歩(八分二厘減)△小麥五萬五千九百三十三町八反歩(三分九厘増)△燕麥七町四反歩(六割四分四厘増)△計九萬三千二百八十七町歩(一分六厘増)

で縣統計課の調査發表による本年麥類實收高及び其の前年との比較は

△大麥九十四萬七千八百九十石(三割零分五厘増)△稈麥四萬二千八百五十四石(三割四分九厘増)△小麥九十四萬三千五百四十五石(四割四分六厘増)△燕麥百十石(十六割八分三厘増)△計百九十三萬

萬四千三百九十九石(三割六分九厘増)である。大体に於て本年の麥作景況は初期の生育は極めて良好だつたが嚴冬期に入つて著しき低溫過乾の天候が持續した爲生育を阻害されたが其の後天候が恢復し溫度も上昇するし晴天が多く雨量も適當にあつたので作況は漸次好轉し、殊に結實期に入つてからは氣候が適順だつたので登熟が極めて良く收穫作業も亦順調に行はれたから昨年の實收高に比較して本年の麥類實收高は三割六分九厘といふ增收を見るに至つたものである。之を各郡市別に示せば左の通りである。(△印は減)

郡市名	作付反別	本年收穫高	前年ニ比シ	作付反別	本年收穫高	前年ニ比シ
大	水戸	二二・三	減	一	一	減
小	水戸	三・七三	減	一	一	減
大	水戸	八三	減	一	一	減
小	水戸	一	減	一	一	減
大	水戸	一	減	一	一	減
小	水戸	一	減	一	一	減

郡市別	蠶養戸數	蠶種掃立數量	白繭	黃繭	繭計	前年收繭高	前年ニ比シ増減
東茨城	三,五八八	六,〇七九	一,〇四七	三,九八九	一,〇六〇	一〇,一〇五	四,〇九〇
西茨城	一,三三五	五,九八六	一,四七〇	一,五七四	一,四〇〇	一〇,一〇五	一〇,〇九七
那珂	二,八五一	三,三五一	七,七〇七	一,九七五	七,七〇七	一三,一八一	四,〇〇七
久慈	二,八五二	三,〇三三	一,八四四	一,一八四	三,〇五九	五,〇八〇	一四,五三三
多賀	三,〇〇七	四,一九七	一,四四四	一,五九一	三,〇三三	五,〇〇〇	四,〇〇〇
鹿島	二,三三〇	五,〇八八	一,三三〇	三,七五八	五,〇八八	八,五三三	一八,三三三
行方	三,三〇四	四,三三三	四,四九七	一,〇七二	五,五七〇	七,六四三	八,四九三
新治	一,六〇三	四,三三三	一,〇七一	一,九一〇	一,〇七一	三,六四三	一八,三三三
筑波	一,九七〇	三,三三三	一,九七一	一,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三
眞壁	四,〇〇〇	一,三三三	一,三三三	一,三三三	一,三三三	一,三三三	一,三三三
結城	三,九七二	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三
猿島	五,七〇七	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三
北相馬	一,〇九九	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三	三,〇三三
合計	三〇,九八八	三三,三三三	一〇,三三三	一五,三三三	一五,三三三	一〇,三三三	一〇,三三三

### 掃立の手控で

## 春繭は減収

昨年の水害も祟る

縣統計課が九月四日發表した昭和十四年に於ける縣下の春

蠶收繭高は總數百八十五萬三千貫で其の内白繭種は七十萬六千八百六十六貫、黄繭種百十四萬六千三百三十四貫で、前年收繭高百八十七萬八千五百四十七貫に比較して二萬五千五百四十七貫即ち零割一分四厘の減収を見た。其の原因は勞力不足の爲養蠶戸數が減少したので従つて掃立數量も減じたのと昨年の水害に依つて桑葉の發育が不良だったのにある。郡市別は左の通り(△印は減を示す)

郡市別	蠶養戸數	蠶種掃立數量	白繭	黄繭	繭計	前年收繭高	前年ニ比シ増減
東茨城	四,三三八	一七,〇三三	三,〇三三	三,九八九	一三,一〇二	一三,一〇二	△六,六九三
西茨城	二,六九九	一〇,一一一	三,〇三三	四,五八三	七,七〇七	七,七〇七	△八,九
那珂	一,九九二	六,三三三	三,〇三三	一,三〇〇	四,三三三	六,四六一	△二,一八八
久慈	二,九二二	六,四四六	三,三三三	三,〇〇〇	六,三三三	六,三三三	△五,四〇一
多賀	一,四三三	二,〇〇〇	一,三三三	九二二	二,二五五	三,三三三	△一,〇七二
鹿島	二,三三三	二,三三三	一,三三三	一,〇〇〇	二,三三三	三,三三三	△七,〇七五
行方	二,三三三	二,三三三	一,三三三	一,〇〇〇	二,三三三	三,三三三	△三,八五八
新治	九,一八八	二,七,〇三三	一,三三三	一,三三三	二,六六六	三,三三三	△五,〇三三
筑波	六,二四四	三,三三三	一,三三三	二,〇〇〇	三,三三三	三,三三三	△一,九一四
眞壁	四,三三三	一,三三三	一,三三三	一,三三三	一,三三三	一,三三三	△三,八八八
結城	五,七〇七	三,三三三	三,三三三	二,九七五	三,三三三	三,三三三	△三,八八八
猿島	二,〇〇〇	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	△九,四九三
北相馬	二,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	三,三三三	△三,三三三
合計	三〇,九八八	三三,三三三	一〇,三三三	一五,三三三	一五,三三三	一〇,三三三	△五,四〇七

# 馬鈴薯は

## 増収を豫想

氣候の適順で

八月一日現在に依り縣統計課が調査した縣下の馬鈴薯豫想收穫高は七百二十八萬八千七百九十七貫であるが、之を本年六月一日現在調査の豫想收穫高に比すれば八十一萬一千三百十八貫の増収を見た譯である。之は一部地方には虫害を見たが概して氣候適順で成育の経過が良好だつた爲である。八月一日現在の豫想收穫高郡市別は左の通りである。(單位は貫)

郡市名	八月一日現在豫想收穫高
水戸	二八、〇〇〇
東茨城	六〇一、九六六
西茨城	三〇五、〇八九
那珂	七九八、六九八
久慈	五七三、一六〇
多賀	三一三、六一五
鹿島	一三四、〇八六
行方	八六、一四四
稲敷	五六二、二八三

# 菜種は

## 一割八分餘減収

大小麥に轉換

縣統計課が九月七日發表した本年の縣下菜種作村段別は千二百三十一町歩で前年の作付段別に比すれば三百九十九町一段歩を減じ、收穫高は一萬四千二百石で前年に比し三千百九十一石(一割八分六厘)の減収を見た。之は大小麥の價額が高いので農家が菜種を麥類に轉換したのと勞力不足等に依るもので、郡市別に示せば次の如くである。

郡市別	作付反別	收穫高	價額
水戸	〇・四反	六石	一五六圓
東茨城	二〇一・八	二、三二九	六〇、〇八七

郡市別	收穫高	價額
新治	五四〇、九二七	
筑波	九三二、七七四	
眞壁	七三〇、八九三	
結城	六七六、八四三	
猿島	八六六、九一五	
北相馬	一三七、四〇四	
合計	七、二八八、七九七	

郡市別	面積	收穫高	價額
西茨城	一一・三	二、二二七	
那珂	一七七・〇	二、五五一	
久慈	二六・四	三、七七一	
多賀	九・四	一〇七	
鹿島	三七八・八	三、九四六	
行方	一八一・三	一、七八二	
稲敷	六・〇	七二	
新治	八〇・〇	九〇〇	
筑波	二七・〇	三、八二二	
眞壁	二四・三	三、三〇六	
結城	五〇・七	六〇五	
猿島	四八・二	四三三	
北相馬	七・四	八二	
合計	一、二三一・〇	一四、〇〇二	三五七、七五六

# 耕地は減じたが

## 水稻の作況は稍良

陸稻の作付面積は増加

縣下に於ける昭和十四年稻作付面積は總反別十三萬二千七百七十五町八段歩で其内水稻は九萬四千二百十四町四反歩、

陸稻は三萬八千五百六十一町四反歩で、之を前年に比較すれば水稻は四百四十一町一段歩の減少を見たが陸稻は之に反し六百八十二町一段歩の増加を見たので結局總反別に於て二百四十一町歩の増加を示した。之は昨年水害で水田の荒地となつたものが復舊未完成で水稻の作付不能のがあつたが其の減少した分を陸稻作付によつて補つたので總反別で増加を見た次第である。

次に八月十五日現在に於ける水稻作況は作付當時から氣候が概して適順で成育は良好だつたが八月五日の暴風雨で縣北部及び東部地方に於て幾分被害を蒙つたので縣下を通じて稍良(五分以内の増収)の作況である。郡市別の作況並に作付面積は左の通りである(單位は反)

郡市別	水稻作況		計
	水稻	陸稻	
水戸	普通	通	二五・一 七・九 三三・〇
東茨城	稍良	良	六八五・六 五、五〇五・五 二、三三六・一
西茨城	全	全	四八七・三 一、七六・九 六、五九〇・一
那珂	全	全	五、六五・六 五、四三・五 一、〇、〇九〇・一
久慈	全	全	六、〇三・五 八、九七 七、二八三・二
多賀	全	全	三、五九・五 五、五二 四、〇〇・七
鹿島	全	全	六、三三〇・九 二、九六・五 九、三三七・四
行方	全	全	五、三二・五 八、三一 六、五三三・六

稻敷	良	一三、七七一	一、九九一	一五、三六五
新治	良	九、三三七	三、三七七	一三、七〇四
筑波	良	七、二九四	二、七四〇	九、八三三
眞壁	良	九、四三二	三、〇四〇	一三、六七一
結城	良	六、八九〇	三、〇四一	九、三六一
猿島	良	四、四二八	五、六四七	一〇、〇七五
北相馬	良	四、八〇〇	八、九四四	五、七三九
合計	良	四、二四四	六、一四四	一三、七五八

## 玉蜀黍は増段

三十七町餘歩を

縣下に於ける昭和十四年玉蜀黍作付面積は一千二百二十九町五反歩で昨年の作付反別に比すれば三十七町二反歩の増加を示した。郡市別に示せば左の通りである(單位は反)

水戸	一・二
東茨城	一六八・三
西茨城	五六・二
那珂	八五・三
久慈	五三・七
多賀	三〇・二
鹿島	七六・八

行方	五三・七
稻敷	一七五・三
新治	一一二・五
筑波	一〇四・二
眞壁	八五・八
結城	七三・〇
猿島	九六・八
北相馬	五六・五
合計	一、二二九・五

## 茶畑は減る

採取と枯死で

昭和十四年六月末日現在に於ける本縣茶畑の總段別は一千百四十八町六反歩で前年同期に比し四十五町一反歩の減を見た。之は他の農作物に比較し製茶の價格が低廉な爲茶樹を採取つたのと昨年の水害に依つて枯死したのが相當にあつた結果である。之を郡市別に示せば次の通りである。

水戸市二町一反歩△東茨城郡七十三町八反歩△西茨城郡三十二町歩△那珂郡七十五町六反歩△久慈郡百三十三町三反歩△多賀郡二十二町四反歩△鹿島郡四十七町七反歩△行方郡三十五町三反歩△稻敷郡五十一町六反歩△新治郡六十五町四反歩△筑波郡三十三町

五反歩△眞壁郡四十町四反歩△結城郡九十五町八反歩△猿島郡四百二十町一反歩△北相馬郡十九町六反歩△計一千百四十八町六反歩

## 増産した

## 澱粉

馬鈴薯は減ず

昭和十三年七月から昭和十四年六月に至る一ケ年間に於ける縣下の澱粉製造場数は十八ヶ所で前年に比し一ヶ所増加した。澱粉の生産數量は千四百七十三萬一千七百三十三斤で之を原料別に分ければ馬鈴薯九千三百七十五斤、甘藷千四百七十二萬二千三百五十八斤で前年に比し總數に於て五百五十五萬二千二百二十五斤を、甘藷に於て五百六十萬七千二百斤を何れも増加し、馬鈴薯に於て五萬四千七百九十五斤減少した甘藷が増加したのは砂糖の代用品として需要の増加したのに依るもので、馬鈴薯に於て五萬四千七百九十五斤減少したのは原料の減産並に需要の減少に依るものである。之を郡別に示せば左の通りである。(單位は斤)

鹿島郡	甘藷	二、八七、四〇二	馬鈴薯	三、八七、四〇二
行方郡	甘藷	一、四〇、〇〇〇	馬鈴薯	一、四〇、〇〇〇
筑波郡	甘藷	三、三、七六六	馬鈴薯	三、三、七六六
計	甘藷	四、七三、三六八	馬鈴薯	九、七五、一六八

## 統計調査員異動

全	昭和十四年九月十日	(上ノ新任括弧内ハ舊)
全	鈴木博	多賀郡多賀町
全	吉田善次郎	(鴨志田 善次)
全	古谷啓一	北相馬郡小絹村
全	石川源太郎	(本田作左衛門)
全	和智延良	(古谷一夫)
全	小澤義夫	(橋本 眞策)
全	鈴木喜徳	猿島郡新郷村
全	深見瀧三郎	(中川 和市郎)
全	野村眞一郎	新治郡斗利出村
全	野村眞一郎	(萩原 稠作)
全	野村眞一郎	(栗原 武雄)
全	野村眞一郎	行方郡延方村
全	野村眞一郎	(穴戸 甚三郎)
全	野村眞一郎	眞壁郡村田村
全	野村眞一郎	(潮田 藤作)
全	野村眞一郎	稻敷郡柴崎村
全	野村眞一郎	(柳町 静一)
全	野村眞一郎	(内藤 勇次)



# 名峰筑波により

## 特異な環境に恵まれる

遊覽地として活路を開くには

温い気持ちで人に接する心掛

ふたり居てさへ

筑波の山に

霧がかゝれば

さびしいもの

と薄倅の詩人横瀬夜雨をして詠嘆させた筑波の町を訪れたのは八月十八日である。快晴とはいかぬまでも兎に角盛夏だといふのに筑波町役場の椅子に腰をおろせば格別暑いといふ感じを抱く程でもなかつた。海拔八百七十五米突といふ頂上から見れば中腹といふべきだらうがそれでも夏は涼しく冬は暖かといはれ昔から柑子蜜柑の名物が土産物にされた程の事も窺はれる譯である。

### 筑波の地質

の話である。

### 筑波山の氣象

昔しの事を書き始めると限りがないから筑波山の由来は此の位に止めて筑波山の氣象に就て記さう。筑波山頂の平均温度は九度二で青森の平均温度と同じであるが青森に比すれば夏は涼しく炎暑の候でも三十度を越えることは少く、酷寒の折でも氷点下十二度を降ることは稀である。筑波町大字筑波即ち筑波神社拜殿附近の平均温度は十度九で今迄に計られた中の最高温度は三十三度三、最低温度は氷点下八度四であるといふ。氣壓は山に登る程低く其の割合は百米に就て平均八耗六でケーブルカーで上下する時耳が一時遠くなつた様に感ずることがあるのは鼓膜の外外で氣壓が急に變る爲で山頂の氣壓は平地に比べて約一割低いのである。風は山頂の平均風速は麓よりも二米程速く今まで計られた中で最も強かつたのは明治三十九年九月に襲來した颶風の七十二米一である。併し斯様に強い風は筑波山上でも恐らく五十年に一度、百年に一度吹くか吹かないで何時でも強い風が吹いて居るのでないのは勿論である。筑波山頂では脚下にだけ雲を見ることが尠くない、一面に低い雲がかゝりその間から周圍の山々が僅かに頭だけ出してゐる雲海の眺めは筑波の一景觀とされて居る

關東の名山筑波の成因に就ては多くの學者が研究もしたし今でも研究を續けて居る向もある程であるが、未だ確實なところ不明である。併し岩石の性質、周圍の地盤との關係から考へると地質學上中世代(今から約二三百萬年前)に地下の岩漿が其の上を覆つて居た古生代の地盤を押し上げて大きな山を造つたものであることが推察されるのである。従つて其の當時の筑波山は現在のそれと比較にならぬ大きな山であつたと思像されるのである。其の後地殻の變動によつて日本の大半は海中に陥没して海底となり筑波山も海中に沈んだのであるが、其の後再び海底が隆起して筑波山も海面に頂上を現はし一つ島の島を作つたが此の時代は地質學上第三紀と第四紀の間頭で、引續き地盤の隆起と砂礫の沈澱によりて陸地を作り所謂關東平野を形成したが今から二三十萬年も前の事だらうと

が、筑波山頂に霧のかゝぬ日は一年中僅かに百六十日位だといはれてゐる。

### 祭神と創祀

縣社筑波山神社の祭神は筑波男神、筑波女神で男神と申すは伊弉諾尊、女神と申すは伊弉册尊である。創祀の年代は詳かでないが、萬葉集の丹比真人國人の長歌に「二神の尊き山の並み立の見かほし山と神代より人の言嗣き云々」とあるのによつても上代にある事は明かである。神域は三百五十餘町歩、老杉古松鬱蒼として森嚴、社殿は西峯に男神を東峯に女神を祀り、延暦元年僧德一が錫を止め山上の神殿を修築し兩部習合の神社として山腹に伽藍を創設し、寛永十年徳川家光の寄進によつて山上の西本殿並攝社を建築し、本堂、五重塔、鐘樓、樓門等輪奐の美を極めたものがあつたが明治維新神佛混淆の禁令にあひ堂宇は悉く破却し、明治八年新に拜殿を造營し、現在の拜殿は大正十三年改築されたものである。

### 祭典と寶物

筑波神社の例大祭は舊曆四月一日御座替祭を執行したので

あるが、それを新曆に移してそのまゝ四月一日に取り行ひ供進使が参向されるのである。三月四日の祈年祭、十二月五日の新嘗祭にも供進使が参向されるが、此の外舊曆四月一日と十一月一日に行はれる春秋二季の御座替祭は臨時大祭を行ひ舊正月十四日には年越祭を行ひ追儺式は同日午前一時に行はれる事になつてゐる。神社の寶物は維新の際大部分失はれ現存するものは四十餘点であるが其の主なるものは後陽成天皇宸翰一幅(徳川氏寄進)後水尾天皇宸翰一幅(同上)太刀(徳川家光寄進吉宗作國寶)等である。

名所と舊蹟

筑波全山が關東一の名峰として知られてゐるのは今更多言を要しない所であるが御橋は神社正面にあつて徳川家光の寄進した總朱塗屋根付の立派なもので常には用ゐず春秋二季の御座替祭に御神輿が渡御することになつてゐる。女体山頂上から僅か下の岩間から清泉が湧出し西南に流れ道を隔て、數尋の谷に落ちこゝを「戀が淵」といひ男体から湧出する橋井の水と合して櫻川に流れるのであるが之が陽成天皇の御製「つくはねの峰よりおつる男女川戀をつもりてふちとなりぬる」といふ百一首中の有名な御歌である。布引瀧はそれから三百米突登りに左に折れ一千米突程行つたところにある。明治

維新の頃には男体山頂上から僅か下に五戸の茶屋がまつて一を依雲亭、二を迎客亭、三を遊仙亭、四を向月亭、五を放眼亭と稱したので五亭といつたものであるが現に残つて居るのは依雲亭だけで、この扁額は勤王の土藤田小四郎がこゝに休息した時捨て、あつた一枚の板に依雲亭と書きそれを自ら彫刻したものである。男体山本殿の背後にある「觀測所」は明治三十四年、山階宮菊麿王殿下が御創立になつたもので設備の完全せる点に於て本邦第一の山岳常設觀測所で明治四十二年中央氣象臺に移管された。地震研究所筑波山支所は東山行人家塚にあつて大正九年東京帝國大學が地震觀測及び研究の爲創設したものである。南朝の忠臣楠正勝は虚無僧となり無月と號し世を忍んで古通寺に住し此所で遷化したのであるが庭前にある三重塔はその墳墓である。攝社稻村神社の西にある石門は俗に鬼神返し又は辨慶七戻といつて人に知られ、立身石、大黒石等と共に登山者を喜ばせてゐる。此の外にも名所として擧ぐべきものは多く、動物や植物でも平地に見られないものが相當にあるが餘り長くなるから此の位に止めて觀察の本文に入らう。

筑波の産業

筑波町は前にも書いた様に平地から海拔八百七十餘米突に

及ぶ高低の甚だしい土地柄だけに他町村に比して著しい特異性をもつてゐる。眞壁郡紫尾村に接する北部と新治郡小幡村に界する東部とは殆んど山林で田や畑は無く、田井村に面する南部と菅間村と上野村に接する西部に耕地水田が開けてゐるに過ぎない。併し生産物の首位を占めるものは何といつても農産物で昨年の生産額は

△水稻十六萬八千三百九十二圓△陸稻六千九百九十四圓△大麥一千二百三十九圓△小麥八百五十四圓△大豆二百六十八圓△春繭八千十三圓△秋苗八千十六圓  
 其他は酒一萬八千圓、醬油五千七百二十圓、繩八千三十圓、木炭五千五百九十二圓、菓子一萬六千六百六十五圓等が主なものであり、筑波町として異色あるものは庭石六千二百五十圓、蜜柑八百七十一圓等があげられ生産總額は三十五萬八千五百七十圓である。

統計調査員

之等の生産調査は勿論統計調査員の手によりて調査集計されるので調査區は九區に分れてゐるが一番廣いのが九區で畑六十三町歩、最低が第四區の田畑二十町歩で、地勢の關係から菅泅の廣狹を以て調査の難易を論ずる譯にはいかない。殊に二區三區は區域が錯綜して調査が殊の外面倒なのは他の想

像以上だとの事である。今調査區並に調査員を列記すれば左の如くである。

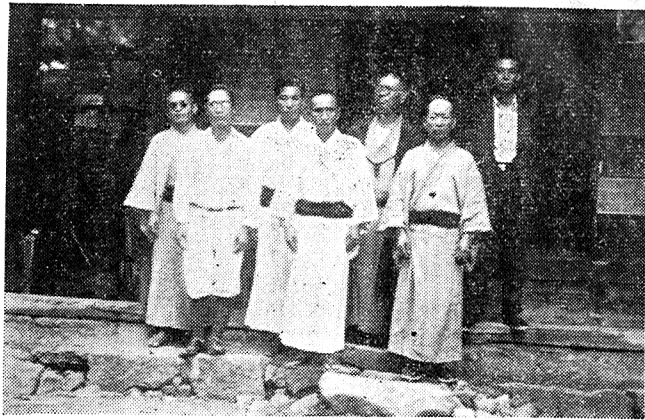
調査區	勤続年數	氏名	年齢
第一	十一年	染田一郎	(三三)
第二	七年	梅田長造	(四〇)
第三	十一年	石井増二	(五五)
第四	十一年	渡邊庫太	(五四)
第五	十一年	岡田仁	(四一)
第六	一年	青木豊	(二四)
第七	十一年	竹森精一	(五一)
第八	一年	鈴木英雄	(三〇)
第九	一年	原勝三	(三四)

調査員の手當は以前二十圓宛支給されてゐたが昭和五年から十五圓となり、米生産統計調査手當三圓を合せて現在十八圓宛を支給されてゐる。同時の豫算は一般豫算二萬三百八十六圓、それに之は特別ではあるが學區豫算といふのがあつて第一學區が六千二百八十四圓、第二學區が六千五百八十二圓、計一萬二千八百六十六圓あるから豫算總額は三萬三千二百五十二圓で、そのうち統計費は六百九十圓を占めてゐるの



### 筑波町役場

含めてあるので他町村に比較し得る様にする爲主任給を控除すれば統計費は二百三十四圓に過ぎず決して統計事務が他に比し優待されてゐる譯ではないのである。筑波町の學區豫算とか、統計費の豫算額の如きは當然改良修正を要する点といはねばなるまい。統計調査員の打合會は毎年七回位集合し調査上の研究討議を行ふが、筑波の統計事務が他に比し優良だといふのは特に工夫をめぐらすとか、新考案をしたとかいふのではなく、只堅實周到に地味な調査集計を毎年繰返してゐるといふにあるのである。



〔右列より〕余澤金・記書松高・記書梅田・役人收田・記書原吉  
〔右列より〕酒寄・記書寄酒・役助寄酒・記書技谷・員術技谷

筑波町役場は筑波驛から僅か數丁の所にある。登山道路の左側で建物は小さく古く極くお粗末なものである。町長齋藤庄平氏は不在で會へなかつたが役場生活二十年に及ぶ助役酒奇七之助氏が町勢一切の説明をして呉れた。収入役代理梅田長造氏は十六年の勤續者、稅務地籍を掌る書記吉原秀雄氏は更に古く大正十年からの勤續者である。書記酒寄泰氏は昭和四年以來戶籍勸業統計の主任として貢献するところ多く、筑波町が統計優良町としての成績を挙げつゝあるのも大半の功は酒寄氏に歸すべきであらう。書記金澤幸次郎氏は昭和十三年就任したので一番日が浅いが仕事の量からいへば兵事、稅務、衛生、教育、社會、社寺といふ多方面に亘り、戦時下の重要役割を引受けてゐる。同町から出て名をなした人は前陸大校長飯村穰中将位のもので筑波町として紹介すべきは名峰筑波に一括されてゐるといつても差支はなく、前に同町有志によつて組織された筑波保勝會の關係もあるので筑波山神社々務所を訪れたが社司大原重明伯の代理といふ人が「筑波山の宣傳は一切眞鍋町の筑波鐵道の方で引受けて居りますのでこちらでは切りません」といふ挨拶だ。之には記者も二の句がつけず、遊覽地、名勝地として將來の活路を開かねばならぬ筑波の人達をもつと來遊者に對して温かい氣持で接する様に心掛けて欲しいと言を附記し視察記を終ることにする。

## 建武の中興に活躍した

# 楠正家の居城瓜連

模範青年を調査員に任命して

### 統計事務の向上を圖る



那珂郡瓜連町を訪ねたのは八月十九日であつた。町役場に刺を通じると統計主任平松書記が迎へて色々懇切な説明を試みて呉れ、そのうちに青年村長として瓜連村の刷新に當り遂に昭和九年町制を施行して今日の瓜連をなさせた寺門正大氏が見えて歡談時を久しうした。以下瓜連町を視察した大要を記さう。

わたのであるが大正十二年木崎村と聯合して揚水機を設置して灌漑してゐる。往古建武中興の功臣楠正家が延元元年此地に據り瓜連城を築いて賊將佐竹義久及び後藤基朝を斬り聲望大いに振つたので名をなした所で、明治三十二年四月一日瓜連、古徳、中里、戸崎、鴻ノ巢の五ヶ村組合を廢し瓜連村と稱し、昭和九年六月十日に町制施行されて今日に及んでゐるのである。

### 位置と沿革

瓜連町は那珂郡の殆んど中央に位し、瓜連、古徳、中里の三大字から成つて地形は稍三角形をなし、周圍は三里三十町東は木崎村に、南は茅野村に、西は靜村に、北は上野村に接し、久慈川の流域に屬し水田の大半は岩崎江堰かな灌漑して

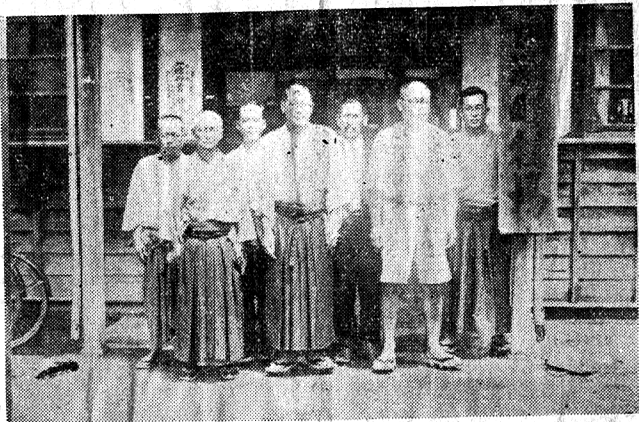
### 戸口と生産

本籍人口は三千九百三十七人であるが現住人口は三千七百五十五人（男一千八百四人、女一千九百五十一人）戸數七百六十九戸である。職業別に見れば農業五百十八戸、水産業十

二戸、工業四十戸、商業百七十五戸、交通業二戸、醫師四戸  
 其他十八戸で、生産物の主なるものを挙げれば

- △米十四萬一千八百六十九圓
- △大麥一萬五千一百一圓△小麥三萬一千五百五十圓△稗麥九萬七千五百圓△大豆三千四十五圓△小豆百九十八圓△粟百六十八圓△蕎麥百八十二圓△甘藷一千二百七十六圓△里芋七百十三圓△生大根一千六百六十六圓△胡瓜三百五十六圓△茄子五百九十二圓△葱百三十圓△煙草一萬五千五百四十四圓△漬菜七百六十圓△養蠶二萬六千二百四十四圓△製茶一千四百圓△柿一千五百二十七圓△木製品六千二百九十圓△竹製品四百圓△菓子類二千三百五十圓△土瓦一千二百三十圓△染物三百三十圓

### 統計調査員



眞寫町内の生産統計は八區に區分して調査されるが、その擔付は

又六區の秋山一雄氏は水中に學び、第七區の寺門一徳氏は水農を卒業した青年であり、第八區の木内徳氏は本年就任した

區別	勤続年數	氏名	年齢
第一區	三年	萩野谷 清	(三一)
第二區	二年	萩野谷 益	(二八)
第三區	三年	寺門 省三	(三一)
第四區	三年	綿引 勝夫	(二七)
第五區	三年	寺門 正久	(二八)
第六區	三年	秋山 一雄	(三一)
第七區	三年	寺門 一徳	(二八)
第八區	本年	木内 徳	(四四)

で勤続年數が何れも短いのは、統計事務の刷新向上を圖るには調査員に其の人を得なければならぬといふ寺門町長、平松主任の意見から數年來統計調査員の改任が行はれた爲で、勤続年數こそ短いながらも篤農家、精農家、模範青年といふ顔觸れで第一區の萩野谷清氏は農家經營の研究家として知られてゐるばかりでなく之を實地に應用して家計を挽回し、第四區の綿引勝夫氏は稲作研究家で其の資料につき會つてAKから放逐した事がある程の篤農家である。

ばかりであるが、會つて昭和初年から約十年統計調査員として活躍した事のある経験家である。

### 優遇と表彰

同町の豫算二萬六千六百十一圓に對し統計費が四百九十四圓計上されてゐるのを見れば縣下の平均額より多い事が判るであらう。之は有能有爲の人に氣持よく働いて貰ふには出来るだけ優遇方法も講じなければならぬといふ主任や町長の親心からである。従つて手當は二十圓と米生産統計調査費七圓計二十七圓を支給し那珂郡内では最高額を占めてゐる。そればかりでなく事務の改善は他を視察して採長補短刷新を圖らねばならぬといふ見地から毎年統計優良町村の視察を試み、之には町費から旅費の實額支給をしてゐる。尙ほ昨年調査員の表彰規程を制定し、成績のよい者には算盤、萬年筆等を賞與してゐる。調査員に其の人を選任し、其の勞に報ゆるに各種の獎勵方法を講じてゐる瓜連町の統計事務が殊に不振を傳へられる那珂郡は勿論縣下に於ても斷然他を抜いて優良な成績を収めつゝあるのは決して偶然とのみはいへない。町當局と調査員の協力一致と町民の支援の賜であるといふべきであらう。

### 事務の統制

統計事務の優良な町村は其の他の事に就けてゐるといへる。瓜連町もその一例で町政事務に各方面に就ても常に斯ういふ工夫が振はれて居る。即ち主任を置き且つ副主任を配して萬全を期してゐるのである。寺門町長が事務を總攬し副主任は常に主任を援けて事務の圓滑敏速を期するといふのが眼目で昨年四月から實施されてゐるのであるが其の配置を分擔表として掲げて見やう。

事務種目	職名	主任	副主任
社寺	助役	綿引 正治	秋山 囃託
學事	同	同	同
土木地理	同	同	同
會計	收入役	吉村 惣介	平松 書記
庶務	書記	平松 喜一	龍崎 書記
稅務	同	同	同
統計	同	同	同
防衛	同	同	同
軍人接護	同	同	同
戸籍	書記	小林 芳太郎	綿引 助役
國稅	同	同	同
兵事	書記	龍崎 由之助	秋山 囃託
文書	同	同	同

